

## 祭礼の概要

# 宝立七夕キリコまつり

【ほうりゅうたなばたきりこまつり】

### 由来

七夕には、七日盆(お盆の始まる日)の意味があり、祖霊迎いの行事であったと考えられています。鵜飼下組のキリコが出発前と終わりに必ず妙厳寺前の浜に立ち寄るのは、その名残とされています。

『石川県珠洲郡誌』(1923年発行)に「鵜飼鵜島には、壮丁等一種の娯楽として大切籠を出す」とあるように、本祭りに対して七夕をキリコ祭りそのものと考え、盛大な祭りに育て上げてきたと伝えられています。

### 開催期日

8月7日

### 開催場所

各地区のキリコが鵜飼川河口の広場(通称キリコ広場)へ集合し、鵜飼漁港へ移動します。その後キリコ広場にもどり、鵜飼川左岸の砂浜から海入ります。



祭礼場所までの所要時間  
■能登空港(IC)より車で約45分

※本内容は平成27年時点の情報に基づくものです。

問い合わせ先

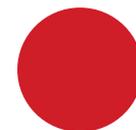
珠洲市観光交流課

〒927-1295 珠洲市上戸町北方1-6-2

TEL 0768-82-7776



平成27年度  
日本遺産魅力発信推進事業



# 宝立七夕キリコまつり



日本遺産 Japan Heritage

灯り舞う半島 能登 ~熱狂のキリコ祭り~



開催日

8月7日

場所

珠洲市宝立町鵜飼



## 行事の流れ

キリコは6日の朝に起こし、夕暮れから明かりを点灯します。キリコ広場にて前夜祭を開催します。

●8月7日

- 18：30 各地区のキリコが動き出す。
- 19：00 キリコ広場にすべてのキリコが整列。
- 20：00 鵜飼川右岸の鵜飼漁港方面へ渡る。
- 21：00 再びキリコ広場に整列。
- 22：00 砂浜へ移動。
- 22：30 花火の打ち上げを合図に海入りし、海上に灯された松明の周りを乱舞する。
- 23：00 海から揚がって、各地区への帰途につく。

※各時間はおおよその目安です。

## キリコの数、造り

14m級の大キリコは、中ノ釜、山ノ手、鵜飼下組、黒峰、鵜飼上組、見附朝日から計6本が出されています。重さは約2t。子どもキリコは高さ6mほどで、少子化により数が減

り、現在は1本が出ています。

七夕キリコは白木が多く、上記6本の内、1本のみが漆塗となっています。キリコの台(脚)下に鉄板を貼り、アスファルトとの摩擦に耐えるように工夫されています。軽量化のため、彫刻の飾り等はほとんどついていませんが、夏の暑い時期に開かれるお涼み祭りの要素もあり、提灯、ぼんぼり、風鈴、吹き流しなどの飾りは軽やかで、涼しげに見えます。

海入りの際、発泡スチロールをカタネ棒の下に入れ、浮力をつけます。海中では倒れないように6人がハンド縄を引いて支えます。

## 囃子、唄

唄はなし。祭り囃子は、鉦1名、太鼓2名、笛1名がキリコ1本ごとに付き、停止、移動、乱舞の3パターンがあります。

## 他のキリコ祭りとの関連

かつては能登町柳田などから古いキリコを買って使っていたようですが、新調して大型化を競うようになりました。担ぎ手

不足とキリコの大型化により、タイヤを付けて曳き回すキリコが増える中、担ぐことにこだわる宝立七夕キリコは、能登最大級の担ぐキリコとなりました。

## 特色

他のキリコ祭りの多くが、キリコは神輿渡御のお供という位置づけですが、宝立七夕まつりは神社と関係がないので神輿や入宮がなく、キリコが主役である点に特色があります。またヨバレ(供応)も行われません。

祖霊送り(灯籠流し)を思わせる海中乱舞は、祭り最大の見所となっています。